

学校経営のビジョンと戦略を支援する参考図書の紹介 (その4)

希代の校長5人に問う、校長のなすべきこと!

「校長の覚悟」

教育開発研究所

「教職研修」編集部著

校長次第で学校の格差が広がる時代。

誰のために学校はあるのか。

校長には何が求められるのか。

希代の校長5人に問う、今、求められる校長の「覚悟」。



「校長がかわれば学校が変わる」とよく言われます。校長先生自身の心構えや取組が「変わる」ことで、学校全体に影響が及びます。あるいは校長先生が異動して「代わる」ことで、学校の雰囲気がからっと変わることもあります。

この「変わる」に、あえてつけ加える言葉は、「良くも悪くも」です。言い方を変えれば、「校長間格差」が大きく広がる時代が到来しているのです。

正解のない変革の時代、学校教育にもやはり正解はありません。ではどうすればよいか。目の前の子どもたちを見るしかありません。この子どもたちにとって今、何が必要か。この子どもたちが将来社会に出るために必要な力は何か。大人に分からないのですから、子どもたちを見るしかないのです。

校長先生次第で学校が変わります。つまり、校長先生は、目の前の子どもたちの「事実」を見て、子どもたちを守り、子どもたちが安心していられる場とし、将来に向けて成長できる・・・そんな学校をつくらなければなりません。

またそれは教職員にとっても同様です。安心して働ける職場をつくっていかなければ、学校教育の根幹が成り立たなくなります。

そこにおいて求められるのが、校長の「覚悟」です。

(本書「はじめに」より)

5人の校長

1 **木村泰子**（元大阪市立大空小学校長）
「すべての子どもの学習権を
保障するために」

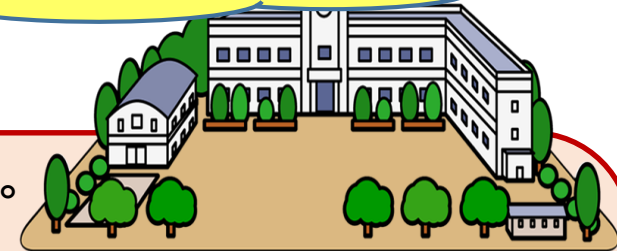
2 **住田昌治**（横浜市立日枝小学校長）
「持続可能な学校をつくる
サーバントリーダーシップ」 （前号で紹介）

3 **西郷孝彦**（東京都世田谷区立桜丘中学校長）
「自分で考え、行動できる
人材の育成を目指して」

4 **小高美恵子**（埼玉県戸田市立戸田第二小学校長）
「公立学校に存在する『壁』の
数々を溶かしていく」

本書紹介にあたっては、出版社の許可をいただいています。

5 **新保元康**（元札幌市立屯田小学校長）
「信頼・安心・貢献を柱に新しい時代の学校を創る」



「○○でなければ、その実践はできない」は、当たり前なのです。
なぜなら、自分（自校）は、「○○」ではないのですから。

人は人。自分は自分。目の前の子どもたちに学びながら、自分が今、ここで何をするか。問われているのはそこです。そしてそこにおいて必要なのが、「覚悟」です。

本書を読まれた校長先生が、自校で自分に何ができるかを考え、そのための「覚悟」をもっていただくことを期待します。

ところで、もう一つもっていただきたい「覚悟」があります。たとえ「校長間格差」があったとしても、全ての校長先生は、その学校の最高責任者です。学校で起こること、学校で行われることの責任は校長先生にあります。「自分がすべての責任を負っているのだ。」という覚悟のもとに、元気のある学校づくりを進めていただきたいと思います。